



沖縄県久米島にある「球美の里」では、2012年から甲状腺検診がおこなわれている。2017年5月 Photo by Ryuichi HIROKAWA

水面下で動く福島・健康管理の黒幕たち

目的は甲状腺がん検診を縮小し、 原発事故と甲状腺がんの関係を否定すること

昨年末に突如浮上した、原発事故と甲状腺がんの関係を検討する「第三者的な」会議を作るという説。

その役割がIARC(国際がん研究機関)の国際専門家グループに投げられようとしている。

IARCとは一体どんな国際機関なのか。それを調べるうちに、福島県立医大との結びつき、

そして原子力推進団体を背景に持つさまざまな研究プロジェクトが見えてきた。

彼ら主導で進められる避難勧告の解除、甲状腺がん検診の縮小、さらには「がん」という言葉を使わないという提案……。

この「専門家」たちに、人々の健康と安全を委ねることなどできないことは明らかだ。これまでの彼らの言動と真の狙いを検証する。

写真・文／**広河隆一**(本誌発行人)、取材・資料提供／**和田真**

Photo & Text by Ryuichi HIROKAWA, Report by Shin WADA